

常願寺川 (富山市) で発見されたツキノワグマの死亡個体

後藤優介¹⁾・南部久男²⁾

¹⁾ 立山カルデラ砂防博物館 〒930-1405 中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

²⁾ 富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

Note on Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) died in the Joganji river, Toyama City, central Japan

Yusuke Goto¹⁾ and Hisao Nambu²⁾

¹⁾ Tateyama Caldera Sabo Museum, 68 Bunazaka, Ashikuraji, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan

²⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

はじめに

自然界において大型哺乳の死亡個体が見つかることは珍しい。これらの動物の死亡要因を知ることはその動物の生態を知る上での基礎的な情報となる。また死亡個体からは詳細な計測値など生体からは得がたい情報を取得することが可能である。

今回、常願寺川左岸の電力会社の取水口で、ツキノワグマとカモシカの死体が同時に発見され、現地調査を行ったので、計測値等を報告する。

調査結果および考察

1 発見状況等

2009年5月20日、富山市大山地域本宮常願寺川左岸の北陸電力の取水口の溜まりで北陸電力の社員によりツキノワグマの死亡個体が水に浮いた状態で発見された。同日富山市教育委員会大山教育行政センターにより確認され、筆者らが現地調査を行った。

2 計測値等

1) 計測値

計測値を表1に示した。各部位の計測は体の右側について測定した。体サイズおよび歯の摩耗程度から3歳程度の弱齢個体と推定された。

2) 外部の特徴

頭部全体、上腕、腹部、腰部、後脚内側等の体毛は剥げ落ち皮膚が露出していた (図1)。長時間

表1 取水口で発見されたツキノワグマ死亡個体の計測値

性別	オス	前掌長	ツメナシ	155mm
体重	35.5kg*	前掌長	ツメアリ	175mm
		掌球 長		100mm
全長	1110mm	掌球 幅		85mm
尾長	30mm	後足長	ツメナシ	185mm
体高	580mm	後足長	ツメアリ	195mm
肩高	480mm	足底球 長		107mm
前肢長	330mm	足底球 幅		80mm

* 水中に放置された個体のため、過大評価の恐れがある



図1 取水口より発見されたツキノワグマの死亡個体

水に浸かっていたためと思われる。胸部の右背側に胸腔に通じる直径3cm程の穴が開いていた。左後肢股関節付近の皮膚がやぶれて露出し、一部の肉等の欠損があった。

3) 剖検所見

皮下と腹腔内には大量の脂肪が蓄積していた。皮下脂肪は腰部背側の最厚部で25mmあり、餓死の可能性は低いと考える。腹腔内の臓器に損傷は見られなかった。右背側の隣接する肋骨3本の基部が一部粉碎し、外部と貫通する直径3cm程度の穴となっていた。胸腔内にはこの穴から流入したと思われる血の混じった水および少量の砂が貯まっていた。胃の内部には約50gの緑色のどろどろの液体があった。内容物は植物質が主と思われるが、同定は困難であった。

3 まとめ

富山県のツキノワグマの計測値等の報告はほとんどなく、南砺市で交通事故死した個体の報告がある程度である(南部・後藤、2007)。今回のような死亡個体であっても、データの蓄積は重要と思われる。

今回発見されたツキノワグマには肋骨に骨折部位がみられたが、これが生きていたときになんら

かの原因ででき、死亡の誘因となったのか、死亡後に水流等の影響でついたものなのかは不明である。取水口の周辺には高さ約1mの鉄柵が四方に張られており、ツキノワグマとカモシカが飛び越えたとは考えにくい。取水口より上流で、なんらかの原因で両者が死亡し、下流に流れ、取水口に入ってきた、または冬季に積雪が柵を覆い隠し、誤って転落したなどが原因として考えられる。

謝辞

調査にご協力いただきました富山市教育委員会大山行政センターおよび北陸電力の職員の方々、富山市科学博物館石川雄士氏に厚く御礼を申し上げます。

引用文献

南部久男・後藤優介、2007. 東海北陸自動車道(富山県南砺市)で交通事故死したニホンツキノワグマについて. 富山市科学文化センター研究報告(30): 81-83.

鎌仲郁之助先生を悼む

中川定一

Memory of late Ikunosuke Kamanaka

Teiich Nakagawa

長年会員であった鎌仲先生が、平成21年10月15日ご逝去されました。享年87才でありました。会の発展のために尽力されましたことに対して深く敬意を表すとともに心よりお悔やみ申し上げます。

先生は大正10年12月2日富山県氷見郡上庄にお生まれになり、旧制氷見中学校を経て昭和18年石川県師範学校を卒業されました。その後太平洋戦争に召集された後に教職に着かれたと聞いています。

先生との出会いは、私が今町小学校6年生の時、先生は私の担任でした。学校へは軍服で授業されていたと記憶しています。生徒が授業に関心を示さない時は三銃士(ダルタニアン)の話をして下さったことを今でも覚えています。当時軍隊帰りの先生方は多く、暴力をふるう先生もおられたが、鎌仲先生は一度もそんなことはなく、やさしい先生でした。

時代が変わり、私も教職の仲間になり市内の中学校に勤めましたが、一度も先生と同じ学校に勤務したことはありません。昭和20年~50年頃、県下の小中高等学校では読売科学作品展が盛んで氷見市の各校も参加、その際、先生が指導された学校も全国レベルで入賞されました。研究題は島尾浜の海浜植物でした。ガリ版刷りの本をいまでも持っています。残念なことです。現在の島尾浜は海浜道路がつき先生たちが記録した重要な植物のほとんどは消失しています。

その後、先生は市内の中心部の南部中学校、北部中学校を歴任され昭和55年西部中学校の校長を最後に退職され、10年ほど向陵高校に勤められました。

私は昭和50年頃から、能登の山を歩く会に参加

し本格的に植物の研究をはじめ、富山県生物学会にも加入しました。当時の会長は故本多啓七先生で、高等学校の先生が多く、現在でも長く会員を続けられている人もおられます。本多先生の指導のもとに弥陀ヶ原、天生湿原、虹が島などに参加、研修しました。鎌仲先生とご一緒する機会も多くなりましたが、鎌仲先生はご家族いっしょに参加されていたようです。

最後になりますが、先生のご冥福をお祈りして筆を置きます。

